

## 平成 30 年度第 7 回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録

日時・場所：平成 30 年 9 月 18 日（火）15：30～16：55 評議会室

出席者：廣川理事長、堺井副理事長、倉茂理事、山根理事、田端理事  
吉田理事、木村理事、山本監事

欠席者：元永監事

事務局：久保田事務局次長、山田総務課長、辻財務課長、吉野経営企画課長、  
澤村学生・就職支援課長、藤川教務課長、草川地域連携・研究支援課長  
杉田課長補佐、吉田主幹、西岡COC+推進コーディネーター、門脇COC+  
推進コーディネーター

平成 30 年度第 6 回公立大学法人滋賀県立大学役員会議事録（案）について、  
原案のとおり承認された。

### 議 題

#### （報告事項）

- 1 滋賀県公立大学法人評価委員会（第 3 回・第 4 回）の結果の概要について  
廣川理事長より資料に基づき報告があった。
- 2 滋賀県公立大学法人評価委員会による平成 29 事業年度の業務の実績に関する評価結果について  
山根理事より資料に基づき報告があった。
- 3 滋賀県公立大学法人評価委員会による第 2 期中期目標期間の業務の実績に関する評価結果について  
山根理事より資料に基づき報告があった。
- 4 彦根労働基準監督署からの是正勧告およびその後の対応について  
山田総務課長より資料に基づき報告があった。

#### 〔主な意見・質疑等〕

- ・資料 27 頁（（2）⑤）の労使協定、確認書の周知が大切。知らないままでは知らずに法令違反を起こしてしまう。例えば、1 日の時間外勤務時間の制限については、人によっては何時から越えるのか異なるし、その日その日で起こる可能性がある。
- ・時間外勤務の削減は、よくこれだけ改善できたと思うが、これまでの時間外勤務に対する認識が甘かったのではないか。

→本学は、公立大学法人化前には地方公務員法が適用され労働基準監督署の立入りはなかった。法人化以降も、協定を厳密に守る意識が甘いままきってしまったが、今後は、こういったことがないようにしていきたい。

- ・他の公立大学でも労働基準監督署の立ち入りがあったとの話を聞くので、全国的に調査検討がなされているかもしれない。こういった情報をよく収集しておいたほうがよいのではないか。

## 5 COC+の取組状況について

田端理事より資料に基づき報告があった。

[主な意見・質疑等]

- ・地場の中小企業には、なかなか若手の新入社員が入りにくい。インターンシップでその会社の概要を把握してマッチングが上手くいけば、仕事を社長から振ってもらうなど、いろいろな働き方ができることにもつながっていくので、インターンシップで社長等と話す機会を設けることは重要と考える。
  - 学生が企業の内容や雰囲気を知って、自分にとって居心地よい職場を見つけられれば良い展開につながると考えている。企業側も、例えば理系学生に限定するというのではなく、インターンシップで相互理解をするということになることが重要と考えている。
- ・COC+の取り組みは終期がある。その後も同じことを続けているのは難しいが、本学の理念と照らし合わせて、続けていく事業の取捨選択が必要であり、この1年は大事な1年になる。
  - ポストCOC+は大変重要と考えている。持続可能な「仕組み」を残すことが一つの命題と捉えており、それをどうデザインしていくか検討を進めている。
  - また、6大学連携の事業については、取捨選択の作業を行っており、どういう条件を整えば継続できるのか検討を進めている。